

講演概要

「社会経済から見た健康加齢」

光多 長温 （法人理事、研究所経済・社会部門長兼主任研究員）公益財団法人 都市化研究公室理事長

1990年代以降、新自由主義経済が一般化し、市場が絶対視され企業利益の最大化が目標とされてきましたが、近年、経済が人間の幸福のためにあるという本来の姿に戻りつつあります。他方、医療も、戦後 WHO で提唱された Well Being 的考え方が近年強くなってきつつあります。この意味で経済と医療とは再び相携えて人間の幸福に向かっていくこととなりつつあります。

健康加齢は、「病気やフレイルがないだけでなく、自らが健康と感じる状態で加齢すること」ですが、日本は世界的にもトップクラスにあります。しかし、国内で見ると、地域間の格差は依然として大きいのが現実であります。この健康加齢地域間格差の原因は、経済、文化、医療、日常生活の一定の要因で相当程度説明できることが立証されます。これから言えることは、生活が安定し、地域で様々なコミュニケーション活動、特に環境保護活動等の地域活動を行い、良き食生活（特に、乳製品、海藻、果物等）を日常的に行い、お茶文化を愉しみ、喫煙や飲酒もほどほどにすることが健康加齢に効果があると言えます。上記、Well Being 生活でもあります。

養父市の健康寿命は、増進しつつあるものの未だに全国平均と比べて高いとは言えないのが現状です。健康加齢増進への取り組みも国内外でいくつか見られますが、まだ緒についたばかりです。当、医療文化経済グローバル研究所は、地域の皆様方の出資によって設立され地域の健康加齢の増進を第一義とする研究所であります。地域の皆さんと一緒に地域の健康加齢の増進にぜひ取り組んでまいりたいと考えます。